

国立アイヌ民族博物館



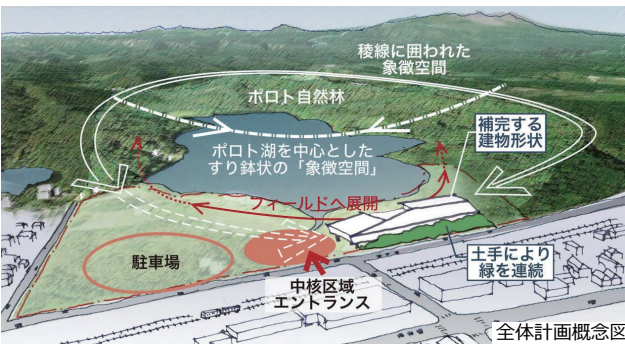
外観

はじめに

国立アイヌ民族博物館は北海道白老郡白老町に開業した「ウポポイ（民族共生象徴空間）」の主要施設として整備された。設計は文化庁により策定された「国立のアイヌ文化博物館（仮称）基本計画」の中に示された「先住民族であるアイヌの尊厳を尊重し、国内外にアイヌの歴史・文化等に関する正しい認識と理解を促進するとともに、新たなアイヌ文化の創造及び発展に寄与する」という博物館の理念を受けて、展示、教育・普及、調査・研究、博物館人材育成、収集・保存・管理を担う博物館として計画され、令和2年2月竣工、令和2年7月開館した。

配置計画

民族共生象徴空間は、ポロト湖を中心につくられ、その周囲は自然林と山の稜線が包んでいる。博物館の立地は、その稜線が途切れて街とつながるところにあった。そのため、ポロト湖を中心に広がる象徴空間の風景を

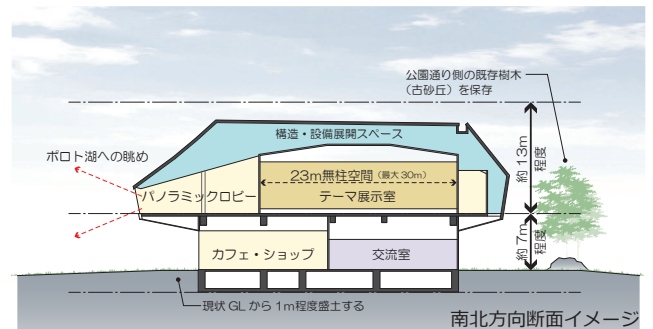


全体計画概念図

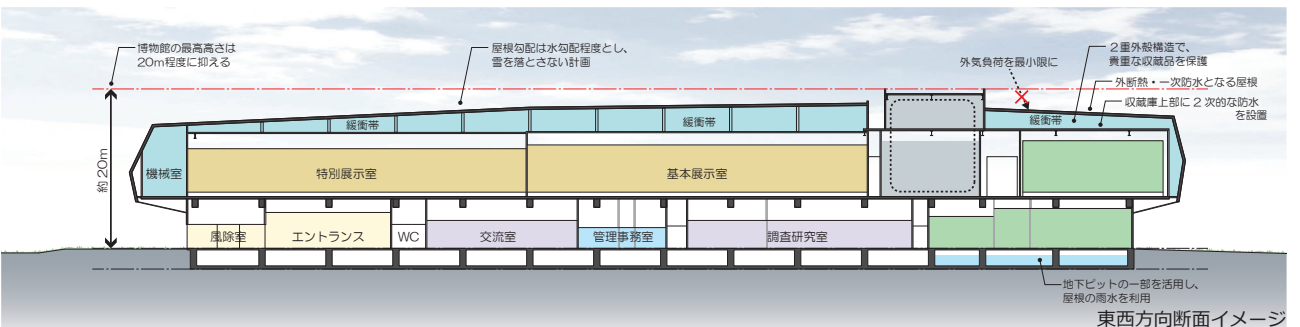
補完するために、稜線とつながり自然と一体となった全体計画とすることで、来訪者をアイヌの歴史・文化の世界観に引き込まれる環境を整える計画とした。

建築計画

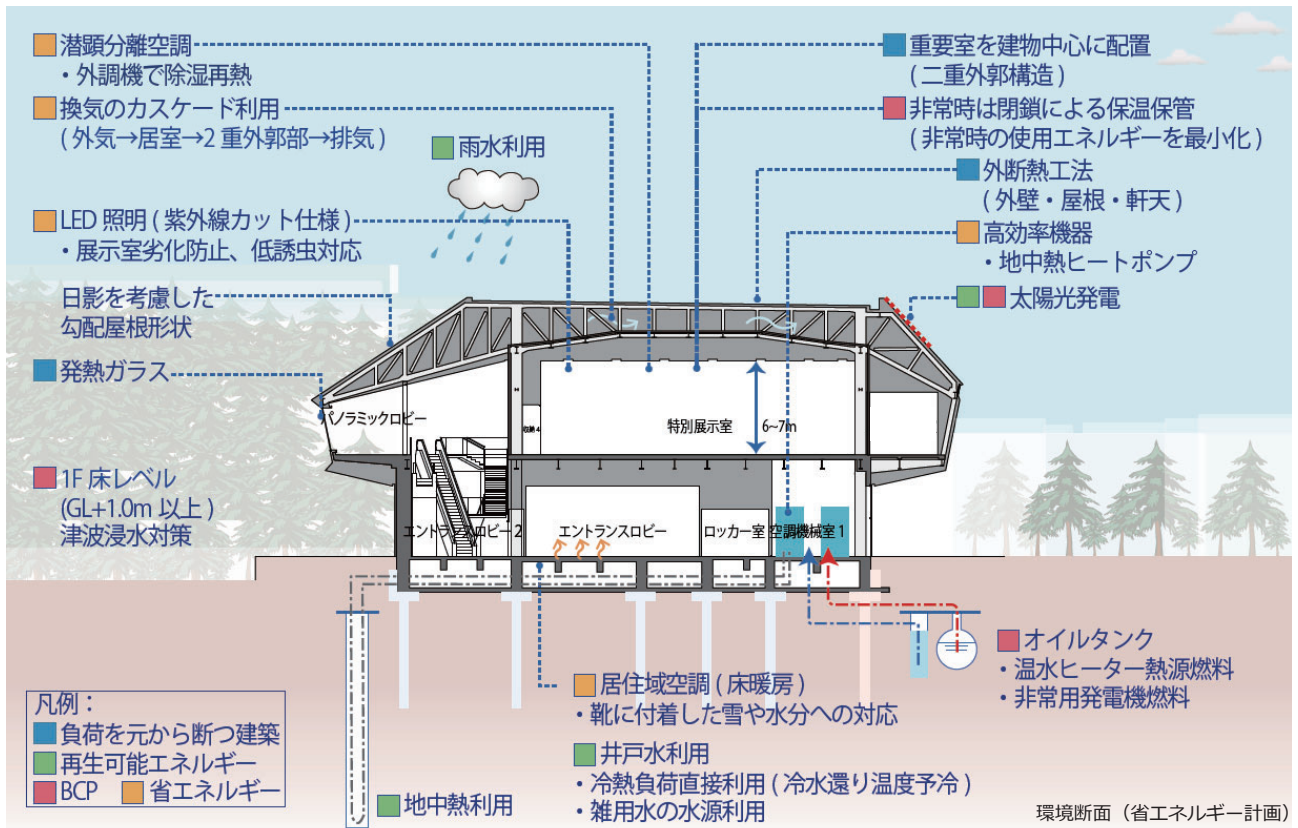
博物館の基本機能は1、2階に納め、1階にエントランスホールとショップ、ライブラリーなどのパブリック部門と調査・研究部門を配置し、2階に重要諸室の展示室と収蔵庫を配置した。平面的には2階の面積が大きく、1階の基壇部に支えられて2階部分が大きく張り出す、高床式様の特徴的な形となっている。2階部分の外形は整形の展示室と収蔵庫を、各室のボリュームに合わせた緩やかに変形する外皮で包み込み、稜線の延長のような自然な形状として景観になじませる形とした。その結果、重要諸室の外皮が二重となる二重外殻構造となり、建築の基本形で空調負荷を大きく軽減する構造となった。



南北方向断面イメージ



東西方向断面イメージ



省エネルギー計画

博物館は、収蔵展示品に対する良好な環境を維持(温湿度変化の少ない)する必要があり、そのためエネルギー消費量は、他の事務所ビルなどと比較し多くなる傾向である。よって、以下に示すキーワードをもとに省エネルギーに配慮した計画を行った。

- ① 負荷をもとから絶つ建築計画
- ② 再生可能エネルギーの活用
- ③ 省エネルギー設備の採用

照明計画

(1) 外部軒下

全周に回された1階軒天井にアジャスタブルダウンライトを設置している。これにより駐車スペースを含む外構周辺の必要照度を確保した。

(2) エントランス

入口外壁にあしらわれたアイヌ文様が浮かび上がるよう照明を設置した。外光で照らされる昼間とは違う表情を演出している。

(3) エントランスホール、カフェ

3台で1セットとして配置したアジャスタブルダウンライトは、配置自体はランダムに配置しているが床上の仕器や座席の配置に合わせてその位置が設置されている。将来的なレイアウト変更に対応するため、その配置の分布密度も適切なものとした。

(4) パノラミックロビー

展示動線は1階のエントランスホールを通過し、エスカレーターから2階のパノラミックロビーに至る。パノラミックロビーはポロト湖のパノラマが広がるため、景色を縁取るような間接照明を設置した。間接照明はパノラミックロビーの照度を確保するベースライトとしての機能も有する。

吹き抜けのエスカレーターの照度の暗さが懸念されたので、アジャスタブルダウンライトの角度を調整し、照度に配慮した。

(5) 展示空間

展示室の天井照明は展示工事で、ベース照明や大型資料へのライティングを担うスポットの役割がある。展示替えの際、約6mの天井高さの照明変更は運営負担が大きいためタブレット操作可能なムービングスポットライトを採用した。このスポットライトはタブレットからの無線システムにより、横方向360度と上下方向90度の範囲で首を振ることが可能で調光機能と配光角の調整機能を有した。

